



NPO 法人 和光・緑と湧き水の会 会報発行 2016年12月号 代表理事 高橋絹世 (462-9912)

身近な自然を知って守り伝えよう <http://wako-wakimizu.org/>

	全体会	新倉ふれあいの森	白子・大坂ふれあいの森(地域の会と協力して)	樹林公園
28年12月	白子植生調査(18日頃)	17日(土) 定期保全	10日(土) 富澤湧水保全 21日(水) 大坂保全	どんぐりの森落ち葉集め(11月末の予定)
29年1月	和光市自然環境マップ検討会(1月)	21日(土) 定期保全	14日(土) 富澤湧水保全 18日(水) 大坂保全	

1. 11月3日は絶好の研修会日和・長瀬と秩父ジオパーク研修会だより

28年度は埼玉県内の秩父長瀬方面を選びました。和光の緑地湧水地や河川の保全活動をしている40名の出席者がありました。都市整備課の公園担当の林さんにも出席していただき、現在進んでいる新倉方面の公園の現状を伺うことが出来ました。

長瀬では、ライン下りの乗船も早くでき、2艘に分かれて荒川の早瀬や瀬と呼ばれるゆったりとした流れを体験しました。下船後に岩畳の固い変成岩をゆっくり散策。

午後は、秩父ジオパークの取方の大露頭、菊水寺、ようばけ、化石館を巡りました。バスの中では、高橋勝緒さんの丁寧な解説で、日本列島のできる頃のプレートテクトニクスの説明、秩父ジオパークの地質についてのお話など、地球の壮大なロマンに触れ、ジオパークの見学に期待がかけられました。赤平川の斜面にある大露頭やようばけを実際に見学すると、1500万年前に海底で出来た自然が生み出す縞模様の崖地に圧倒されました。地質研修の大切さを実感しました。大陸から離れ、日本海が現れてくるといった壮大な地球の変動する歴史の刻まれた1500万年前の地層を目の当たりに見学し、大きな感動に包まれました。



湧き水の会の保全地である白子の富澤湧水で観察できる地層は、これよりずうっと新しく、武蔵野台地のできるのには10数万年、ここでの湧き水もスケールの大きな自然の偶然から生まれたものです。どちらも貴重な地質の歴史、ジオパークです。大切に見守り、次の世代に伝えていきたいものと感じました。



写真上
800 m
の大露
頭に沿
って地
質の散
策会



写真下
化石館
からよ
うばけ
がそび
える迫
力ある
景観



岩畳を背景に全員集合